

語彙的側面からみた学習者の文章理解について
—学習者のテスト結果分析をもとに—

About the Sentence Understanding of the Learner Which is
Analyzed from the Lexical Side
—Based on the Analysis of the Test Result of the Learner—

赤塚 恵子*

Keiko AKATSUKA

Abstract

An accurate understanding of communication at the sentence level occupies an important position in language learning. When the transmission is performed, correct mutual understanding, or common understanding, may not always take place with both parties. It is necessary to comprehend the entire discourse to achieve common understanding, instead of understanding each sentence as a discrete unit. To explore this area an experiment to investigate the causes and language environment of comprehension errors made while reading a newspaper article was conducted.

Results show that problems arose from anaphoric relations, connection or unity characteristics, and the context of each point of view of the related words and phrases. By

キーワード：語彙，文脈，正確さ，共通理解，構造体

1. はじめに

日本語教育には異文化システムとのスムーズな接触や差異の認識など相互共存のための最も基本的な共通項をつくるという役目がある（木村 1994）と言われているが、言語学習という観点からみればそれらは単に伝達的手段を学ぶことのみではなく、ことばの意味や機能を駆使して思考力や想像力を高める学習であるともいえる。

*本学専任講師、日本語教育（Japanese Language Teaching）

ここでは文章を取り上げるが、話しことばの談話とともにコミュニケーションの手段としてことばを媒体とするものであり、話し手と聞き手、あるいは書き手と読み手相互の理解の正確性の基盤となりうるものである。即ち、コミュニケーションの一つの手段であることばは言語学習の中核を担っているといえる。

そして、この双方が共通の認識を持つためには、文単位の学習ではなく一つの構造体として文章全体を受け止めることができるようにならなければその目的は達成できないのではないかと考える。そこで第二言語習得のための大きな柱とされている語彙と文法のうち、意味を持つことばとしての最小単位である語彙に焦点をあて、日本語教育の中での語彙指導における問題点及び役割と他の各指導との兼ね合いをもとに文の要素としての機能を取り上げ、学習者の理解の過程、捉え方についてみていきたい。

しかし、日本語学習者と言っても学習者の学習目的によって、語彙的な相違が大きく出てくるので、大学留学生に限定する。又、相違を分析するに当たり、その語をとりまく言語環境との関連も考えられるのでとりあげていく。

語彙指導の課題（甲斐 1990）としては「日本語教育における位置・役割」「学習者にどういう語彙能力を育成するかという指導目標の設定」「語彙指導の方法」「国語教育の中の語彙指導との関係」などさまざま挙げられているが、本研究では厳密な意味での語彙ではなく、日本語学習者への言語能力の付与、育成を目指すための広義的な語彙指導をとりあげる。

同じ語彙、語句、文など日本語を母語としない日本語学習者のその捉え方の特色を実際の授業を通して検証する実験を行う。

2. 本研究における語義の個別的意味

森田良行（1996）が、意味分析・意味記述に関する二つの立場を述べている。一つはことばの全体を総括する共通の意味的特性を考え、次にそこから外れる個別的意味を特定意義素の消去や誇張と捉える考え方である。

もう一方は個々の個別的意味こそ現実の表現・理解過程におけるその折々の統一的全体であるから、言語行為の意識を重視する立場に立てば、談話や文脈の流れの中での個別的意味にこそ目を向けるべきであるとの立場である。この後者の考え方は二律背反のように前者を否定するものではなく、異なる視点からの意味把握を強調するとともに、辞書的意味記述とは違った具体的な行為としての意味把握の在り方をとらえてみるということであると述べている。

表現や理解の折々の意味、つまり文脈の意味をどのようにとらえるのか、語義は文脈や場面の流れによって伝達効果が生まれるものであるから、個々の個別的意味はその流れの一点に過ぎないが、その語が実際の文脈中での文意に与える役割りとなると大きな意義が

生じると考えられる。しかし、絶えず動く文脈の中にあって働く意味作用をどうとらえていくのか。これに関しては通時的なものと共時的な面からの捉え方があるが、本研究では後者の文脈や文型などとの関わりによる相互作用である共時的な面から捉える。そして文の前後の環境と共に場面、状況を含む広義の文脈として考えていく。

故に、内容的には事実即ち意味であっても一般的な指示内容を客観的に捉えた説明では、表現者の具体的な意識ではない。語の意味はその語が運用されることによって初めて生かされるものである。即ち、場面や文脈を前提とするから、具体的な個別運用状況との因果関係を探る必要があると考えられる。

3. 実験

3-(1) 実験仮説

本研究では、その語のもつ意味及び性質、その語がおかれている言語環境を通して中国人留学生（以下非母語話者と称する）の誤答の原因を明らかにし、正確な文章理解への阻害となる原因を探る。

実験にあたり、以下の3つの仮説を立てた。

<仮説1> 質問に対する解答に誤答が生じた場合、そのことばの既習、未習による辞書的意味理解の有無は否定できないが、それに起因するのみでなく、文脈の捉え方にも起因すると考えられる。即ち、文の前後関係、その語のおかれている文における省略、指示など、又、文と文との結束性の度合いなど言語環境に対する読み手の理解度も大きく影響すると考えられる。

<仮説2> 概要記述問題と内容理解に関する問題とでは概要記述問題の方が高い成績を示すと考えられる。概要は文の意味理解が不能な場合、あるいは不正確な場合でも何らかの手段で解答できると予測される。しかし、これでは実験の意味がなくなるので以下の仮説を立てる。

<仮説3> 内容理解に関する得点と概要の得点とは比例する。

以上の仮説を通して、誤答が生じる要因を探る。

3-(2) 被験者

被験者は留学生（中国人）13名で日本語学習初中級修了者（1年、1年半学習）である。

留学生の日本滞在期間は実験開始当時、大きく分けると平均して0年、1年、1年半である。但し授業の一環として行ったので、人数は毎回（全11回）一定していない。

3-(3) 実験方法

調査期間は2007年4月から2007年7月までである。

方法としては ① 日刊紙の読者投稿欄より文章を選び問題を作成する。外国人学習者の

視点からの捉え方を問題作成に考慮するため中国人の日本語教員とともにその文章における省略表現の部分を再現する。② 文章内容の概要記述問題と①で考慮した省略表現に関する問題を中心に作成し、非母語話者にその問題を課す。③ 結果を分析する。という手順をとった。実験にあたり、① 実験目的より、難解あるいは非日常的な語彙の出現を避けるため、一般市民が書いた日常的な話題、表現が多用された文章を選択する。② 理解に関して日本事情、文化的要素の知識が強く要求される文章は避ける。の2点を配慮し、文章を選んだ。テスト時間は30分とする。

そして以下の採点基準を設け、分析を行った。

<採点基準>

1. 概要記述部分を3段階評価(A、B、C)の判定をする。記述された概要がその文章の中心文にせまっているかどうか重点を置く。内容理解問題は各1点とし、採点する。(問題に関する模範解答を基準とする。)
2. 解答における文法的な表現の誤りは、解答内容に影響を及ぼさない限り正答とする。

<方法>

1. 概要記述の正確さと内容関連問題の理解度との相関性を考察する。
2. 内容関連問題の誤答に関して考察をはかり分析し、その結果の類別化をおこなう。

3-(4) 実験材料

以下の11編の選んだ文章を調査に先立ち分析する。

それぞれのタイトルは 1. 学歴だけの判断はしないで 2. 自転車用道路を充実させて 3. 水鳥の愛にしばしたたずむ 4. 娘が喜んでくれた 5. オレオレ詐欺には一呼吸おく 6. まず教員から雑用を取り除け 7. 日光と適当な水分と肥料と愛情 8. 長崎旅行で深く考えさせられた 9. 脳の老化防止になるごみ分別 10. 100円ショップのお蔭で心豊かに 11. 我が子の成長に感謝 である。

これらの各文章は内容の展開上、それぞれまとまったテーマを持ついくつかの部分に段落として区分することができる。段落は書き手がその内容に応じて行を改めるので、容易に見つけることができるが、その構成は順次結合していくとは限らない。それらを意識して以下のように各文章を分析する。

分析事項としては、構造体として文章を捉えるために部分の成り立ち、成分の構成、文同士の関連などをみる。そのために①段落総数②統括機能のある段落数(何番目か)③各段落の結びつき④各段落の役割りを挙げ、問題作成及び分析に活用する。

<問題文>表-1

題	段落 総数	統括機 能段落	各段落の結びつき	各段落の役割り
① 学歴だけの判断はしない	4	4	I 体験談 II 体験談 III 一般論 (I、II に 関する) IV 結論	I 事実 (話題に対する叙 述) II 事実 III 気持ち IV 中心文
② 自転車用道路を充実 させて	3	3	I 一般論 II 一般論 III 結論	I 事実 (一般論) II 気持 III 中心文
③ 水鳥の愛にしばした たずむ	5	5	I 体験談 II 体験談 III 体験談 IV 体験談 V 結論	I 事実 II 事実 III 気持ち IV 気持ち V 中心文
④ 娘が喜んでくれた	5	5	I 一般論 II 体験談 III 体験談 IV 体験談 V 結論	I 事実 II 事実 III 気持ち IV 気持ち V 中心文
⑤ オレオレ詐欺には一 呼吸おく	3	3	I 体験談 II 体験談 III 結論	I 事実 II 事実 III 中心文
⑥ まず教員から雑用を 取り除け	3	3	I 論理 II 論理 III 論理 IV 結論	I 事実 II 事実 III 事実 IV 中心文
⑦ 日光適当な水分と肥 料と愛情	3	3	I 体験談 II 体験談 III 結論	I 事実 II 事実 III 中心文
⑧ 長崎で深く考えさせ られた	4	4	I 体験談 II 体験談 III 体験談 IV 結論	I 事実 II 事実・気持ち III 事実・気持ち IV 中心文
⑨ 脳の老化防止になる ごみ分別	5	5	I 体験談 II 体験談 III 体験談 IV 体験談 V 結論	I 話題提供 II 事実 III 事実 IV 事実 V 中心文
⑩ 100 円ショップのお 陰で心豊かに	3	3	I 体験談 II 体験談 III 結論	I 事実・気持ち II 事実 III 中心文
⑪ 我が子の成長に感謝	3	3	I 体験談 II 体験談 III 結論	I 過去の事実 II 過去の事実 III 中心文

(2004 年 12 月毎日新聞読者投稿欄より抜粋)

新聞読者欄への掲載文であるため、統括機能のある中心文は 11 編とも各段落の最終段落に収まっている。

各段落の結びつき（内容）は体験談、一般論、結論と表したが、具体的に分けると (1) 事物・事実などの認識を表す (2) (1)の認識に対して判断や意見を表す (3) 自己の心情を表わす (4) 相手への態度、心情を表わすと(1) から(4) のいずれかに属すると考えられるのでその内容を一覧表の右端に各段落の役割として記載する。

3-(5) 実験手順（資料 1）

以下のようにテスト問題を作成する。

上記 3-(4)に沿って文章を段落に分け、ローマ数字で示す。文章中の○で囲まれた数字は問題番号に使用する。そしてその原文における省略箇所を補充した文章、問題に対する模範解答例の 3 点を 11 編とも準備する。

例〔資料 1 より資料④抜粋〕

<娘が喜んでくれた（原文）>

- I ①中学生の娘が、1年前から楽しみにしていたその日はハリー・ポッターの 4 巻が、日本で発売される日でした。
- II ②以前、発売日に買えず、娘に悲しい顔をされたことがありました。③今回は、しっかり予約をし、その日に買えるように手配しました。④そして、しっかり買って、家に帰ると、娘がなんと机に向かっています。⑤「珍しいね。勉強？」「うん。明日から実力テストだからね」（以下略）

省略箇所に省略されている語句を挿入して、それを基に問題文を作成する。（網がけ下線部分が挿入した部分）

<娘が喜んでくれた（省略箇所補充文）>

- I ①中学生の娘が、1年前から楽しみにしていたその日は、ハリー・ポッターの 4 巻が、日本で発売される日でした。
- II ②以前、私は娘がほしがっていた本を発売日に買えず、娘に悲しい顔をされたことがありました。③今回は、私はしっかり予約をし、その日に買えるように手配しました。④そして、本の発売日にしっかり買って、家に帰ると、娘がなんと机に向かっています。⑤「お前が机にちゃんと座っているのは珍しいね。勉強でもしてるの？」「うん。明日から実力テストだからね」と娘は答えました。（以下略）

<問題に対する解答を作成する>

別紙の文章の概要を書きなさい。

本日はハリーポッターの 4 巻の発売日であり、以前に買えず、娘に悲しい顔をされたことがあるので今回は予約をしてしっかりと買って帰ってきた。

しかし、うっかりしていたがこの日は実力テストの前日で娘は珍しく勉強している。娘に本を渡すべきではないが、娘の喜ぶ顔がみたくて渡してしまった。娘のテスト結果は最悪で妻にも怒られたが、しかし、この気持ちは男親だったら分かってもらえると思う。

II

- ②「発売日に買えず」何を買えなかったのか。 (ハリーポッター4巻以外 / 1、2、3巻)
- ③「予約し」 誰が何を予約したのか。 誰が (父)
何を (ハリーポッター4巻)
- ④「しっかり買って」誰が何を買ったのか。 誰が (父)
何を (ハリーポッター4巻)
- ⑤「珍しいね」何が珍しいのか。 (勉強をしていること)
・「珍しいね」 A 「うん。明日から～」の間と、「～実力テストだからね」 B
AとBに適当な文を補いなさい。 ([例] ○○は△△に言いました... 等)
A (私は娘に言いました)
B (娘は私に言いました)

III

- ⑥「すっかり忘れていました」 誰が何を忘れていたのか。
誰が (父)
何を (あすの実力テスト日) (以下略)

4. 結果

4-(1) 誤答率と誤答内容

以下のように誤答率と誤答内容をまとめる。但し、誤答内容に関してはその原因が明らかに解答ミスによるものと判断される場合や無解答は記載しない。(誤答内容表記は原文どおり)

<学歴だけの判断はしないで> 表-2

*左端の番号は問題

番号

	(誤答率・数字%) (誤答内容・数字誤答人数)
①	5 7 (面接時における面接官のことば1・学歴だけで判断しない1・筆者の学歴はあまり高くないから3・いい学校を出ても天才になるわけがない1)
③	4 3 (高学歴の人1・友達3・先生1・塾の学生1)
⑥	5 0 (いい先生だという意味1・学歴が一番大切と考慮され冷たい眼で見られたが面接に行った1・面接はよくなかった1・学歴が考慮された2・教える工夫を示す1)
⑥	3 6 (面接の先生4・私1)
	4 3 (私3・友達1・面接の先生1)
	7 9 (どんなことでも真剣にした方がいい1・生徒に知識を教える熱意や講師になりたいという熱意2・学歴も重要だが、高学歴だからうまいとは限らない3・教えることが好きなので精一杯やる1)

⑦	7 (家族と会社1)
---	------------

<自転車用道路を充実させて>

	(数字・誤答率%) (誤答内容・数字誤答人数)
①	7 (並列関係1)
④	14 (生活の中に乏しくない1・自転車の方の便利足だけ動かす1)
⑥	7 (感じがいいから1)
⑦	57 (風を感じながら走るのは最高3・車では見られないような景色を見れる、人と挨拶ができる1・髪が少ない人2)
⑩	36 (運動は人の気持ちをよくする2・足腰が鍛えられ、力を使って進む1・発泡酒を飲んだから1・足腰が鍛えられ、腰痛からも解放された1)
⑬	43 (床が凸凹1・残念のある1・お粗末なことである1・自転車可の歩道が少ない1)
⑬	36 (自転車の凸凹2・凸凹だったり1)
	64 (車の平1・自転車1・狭かったり3・歩道が少ない1)
⑬	100 (粗末と小さい1・狭かったりにしています1・自転車に乗ることつらいし、あぶないし1・あの道路は平だったり、狭かったり1・狭い道路が多い1・凸凹するし、狭いし3・サッカーしたりバレーボールしたり1)
⑮	21 (それに1・が1・そして1)

<水鳥の愛にしばしたたずむ>

	(数字・誤答率%) (誤答内容・数字誤答人数)
①	0
①	20 (空1・水鳥1・巣1)
③	0
③	13 (卵4個1・おどろいた1)
③	67 (数日前1・卵を産むこと1・水鳥4・とびたつ1・何の反応もない2)
⑤	67 (風1・斑模様の巣1・草2・水鳥4・草刈2)
⑥	53 (鳥の巣をそのままおいていたこと1・水鳥の巣5)
⑧	13 (水鳥2)
	0
⑩	13 (見て1・の1)
⑪	40 (近よる1・休耕田の草むら2・巣立ちの日まで1・巣立ちに1)
	33 (鳥の巣3・水鳥が卵を産んでいる1)
⑫	13 (空に飛んでいること1・卵を産むこと2・水鳥の雨の中でもひとがちかよったところでも平気で卵を産んでいる1)
	47 (巣立ちの日の後2・私の心にほのぼのとしたものが宿っている1・水鳥が飛び立たなかった1・しばし雨にたたずんだことから1・生まれてから1)

<娘が喜んでくれた>

	(数字・誤答率%) (誤答内容・数字誤答人数)
②	54 (ハリーポッター4巻)
③～が	38 (娘 発売会社)
～を	15 (手配)
④～が	23 (娘 母)
～を	0
⑤	23 (発売日、ほしい本、実力テスト)
A	54 (母→娘)

B	5 4 (娘→母)
⑥～が	6 2 (娘 母)
～を	6 2 (本 発売日)
⑬	8 (喜んでくれる)
⑳	5 4 (必ず しかし それから)

<オレオレ詐欺には一呼吸おく>

	(数字・誤答率%) (誤答内容・数字誤答人数)
①	1 8 (被害者の友人 1・詐欺師 1)
	9 (被害者 1)
②	9
②	9 (平日はいつも冷静なのに今日はどうして 1)
②	8 2 (被害者 1・友人はいつも冷静なのに 4・オレオレ詐欺のことを聞いて 2・友人の息子が詐欺の被害にあったこと 1・親戚の状態は心配 1)
④	3 6 (私 3・作者 1)
④	3 6 (友人 2・被害者 1・自分の息子 1)
	3 6 (友人 1・被害者 1・詐欺師 1)
⑥	2 7 (私 3)
⑧	8 2 (銀行が閉まってしまう時間が気になっていたから 6・解決的な方法 1・前のことを回想する 1・もう一度初めから考えたから 1)
⑨	6 4 (私 5・筆者 2)
⑩	9 1 (会社員 1・私 6・筆者 2・友人 1)
	9 (いざとなると分からなくなる 1)
⑪	3 6 (伝聞のこと全て信じたらいけない 1・人間じゃないから 1)
⑬	5 5 (私 3・友人 2)

<まず教員から雑用を取り除け>

	(数字・誤答率%) (誤答内容・数字誤答人数)
②	8 8 (定年後 2・この春 2)
③	8 6 (教員の 3)
⑤	1 4
⑦	7 7 (暇がない子ども 1・筆者の子ども 1)
⑦	2 9
⑧	0
⑫	1 4

<日光と適当な水分と肥料と愛情>

	(数字・誤答率%) (誤答内容・数字誤答人数)
①	1 4
①	5 7 (畑の中にいるつる 1)
	5 7 (つるが植物を食べるから 1)
③	2 9 (野菜 1・自分で作った野菜 1)
④	8 6 (サツマイモをいっぱい収穫した 1・働く 1・前のことでした 1)
⑤	5 7 (苗を買うより種から育てる方がよい 1・自分が決めること 1・選択した地方が一番いい 1)
⑥	1 4
⑧	0

⑨	1 4
	2 9
⑨	2 9 (サツマイモ 1)
⑫	4 3 (サツマイモの植え、収穫 1)

<長崎旅行で深く考えさせられた>

	(数字・誤答率%) (誤答内容・数字誤答人数)
②	7
②	1 4 (旅行中深く考えさせられた 1・九州で旅行中そんなに慌たしないから 1)
⑤	5 0 (長崎旅行で深くかんがえさせられた 1・大浦天主堂 1・旅行中大浦天主堂からグラバー亭へ行く時 5)
⑥	5 7 (爆弾 2・と話した 1・むりやり 1・歴史 1・初めて 1・帰る時に 1)
⑦	8 6 (ながら 1・水を求めて 1・むかった 1・心が重くなって 3・行くことになった 1・から 2・爆心地 1)
	5 0 (行きます 1・残酷なことを考える必要 2・いくことになった 1・人々 1・公園で 1)
⑧	9 3 (のまれる 1・求めて 2・流れる 2・だす 1・こんな地で 1・飲む 3・さがす 1・のもう 1・みせる 1)
⑨	2 9 (和平 2・碑を建てるのが 1・注意する 1)
⑩	2 9 (社会科が苦手、自分も若いので戦争を知らなくてもあたりまえ 1・過去をふりかえってしかたああがないこと 2・ガイドが戦争のことを教えてくれたこと 1)

<脳の老化防止になるごみ分別>

	(数字・誤答率%) (誤答内容・数字誤答人数)
②	0
④	0
	0
⑤	1 7 (市民(ごみを捨てる人) 1)
⑥	0
⑦	0
⑧	1 7 (資源ゴミ 1)
⑨	5 0 (プラスチックと紙類はすぐ処理できないから 1)
⑪	1 7 (資源ゴミ 1)
	3 3 (プラスチックとリサイクルの処理能力 1)
	1 7 (プラスチックの有料化 1)

<100円ショップのお蔭で心豊かに>

	(数字・誤答率%) (誤答内容・数字誤答人数)
③	5 0
④	1 7 (水 1)
⑤	0
⑥	6 7 (ミシンは 3)
⑥	1 7
⑦	0
⑧	5 0 (しかし 1・だが 1)
⑨	1 7 (製氷皿 1)
⑩	1 7 (冷凍庫の部分 1)

<我が子の成長に感動と感謝>

	(数字・誤答率%) (誤答内容・数字誤答人数)
①	0
②	0
③	7
④	7 (筆者の父親1)
⑤	4 6 (娘3・父親1)
⑥	3 1 (娘4)
⑦	2 3 (娘1・病気で死んだ母親2)
	7 (作者1)
⑦	5 4 (娘6・母1)
⑧	1 5 (娘2)
⑩	3 1 (作者の母1・娘3)
⑩	1 5 (息子1・母親1)
⑪	3 8 (あれから2・すると1・これから1)
⑬	3 1 (卒業式に参加2・筆者を母と呼ぶようになる1・娘について感動1)
⑭	3 1 (筆者4)

4-(2) 誤答分析からの考察

4-(1)の誤答内容の原因をまとめると以下のような原因に帰すると考えられる結果が得られた。

<学歴だけの判断はしないで>

- ・よく似たことば、表現を文章中より拾い出し、解釈の一助とする
- ・ことばの解釈—文脈解釈ではなく一般的な意味解釈をする—
- ・基本的な文法知識—格助詞「の」の働き—の誤り
- ・主語と対象の省略—行為者とその対象との不鮮明さ—
- ・段落による場面の突然変化、急展開—段落間の接続詞の省略、文の表現から読み取る時間の流れ—

<自転車用道路を充実させて>

- ・文として理解しても全体解釈にその理解をつなげられない—文の中心文が捉えられない—
- ・時間の流れ

<水鳥の愛にしばしたたずむ>

- ・時間の大きな経過及び逆行、視点の変化の有無 (以上の要素の存在による誤解)
- ・基準の必要なことばに関してその基準を見つけることができない

<娘が喜んでくれた>

- ・各文中における関連語の認識
- ・同じことばだが意味するものは別 (関連を持たせて理解しようとする)
- ・文章構成における問題—書き手の視点の移動 (同一人物「私」「父」「筆者」)—

- ・時制（テンスとアスペクトの問題）

＜オレオレ詐欺には一呼吸おく＞

- ・問われることばの前後にそのことばで指示される状況が複数ある
- ・話し手の視点が変化する—主語の省略—（視点の変化による主語の推測の困難性）
- ・説明はあるがその意味する具体的な内容が文字として表現されない

＜まず教員から雑用を取り除け＞

- ・問われることばの前後に解答に関連したようなことばがある
- ・同じことばだが指し示すものは別（上位語、下位語の概念）

＜日光と適当な水分と肥料と愛情＞

- ・主題変化
- ・植物に関する特殊な知識

＜長崎旅行で深く考えさせられた＞

- ・主語の省略—述語の判断の誤りによるもの—
- ・体言止め、中止形の後の動詞の推測
- ・表現形式の突然の変化—場面状況の説明から突然人の思いを会話体で述べる—

＜脳の老化防止になるごみ分別＞

- ・説明文の内容が具体的に書かれていなかったり、離れた段落の中にヒントがある場合

＜100円ショップのお陰で心豊かに＞

- ・時間の大きな経過及び逆行、視点の変化の有無（以上の要素の存在による誤解）

＜我が子の成長に感動と感謝＞

- ・ことばの解釈—文脈解釈でなく一般的な意味解釈をする—
- ・助詞の働き
- ・複合的な解釈（関連のあることばから推察して意味理解の拡大を図る）

4-(3) 概要記述問題と内容理解問題の相関関係（資料2）

- ・概要記述の評価点と内容理解度得点数との明確な相関性は明確にはみえないが、全体的にながめると、内容理解問題の得点の高い場合に概要記述の評価もA評価と高くなる傾向がみられる。
- ・C評価のグループのほうが平均点が高い場合がある。

C評価は概要記述において書き手の「体験・気持ち」は書かれているが、その中で時間的流れ、仮定表現など文法理解に関する点について誤った解釈がなされているのが目立つ。

- ・問題得点数は高くても、概要記述の評価が悪い場合はその文章の中心文が書かれていない場合が多い。

(概要記述問題の評価と内容理解問題の平均点の一覧) 表-3

文章番号 平均点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
平均得点 1	A	B	A	A	A	A	A	A	C	A	A
2	C	A	B	C	B	B	C	BC	B	C	B
3	B	C	C	B	C	C	B		A	B	C

* 空欄は該当者無し、同じマスに2評価が入っている場合は同点の意

* 平均得点 1、2、3 はそれぞれ内容理解問題の平均得点の高い順を示す (1 (高) → 3 (低))

* 概要記述問題の評価点 C には未記入のものも含む。

概要記述問題の評価と内容理解問題の得点は比例するという<仮説3>に対して平均化され

たものではない各々個人の相関関係をみるために非母語話者の一人一人のグラフを作成し考察したが、やはり明確な比例関係は見られない。この分析は個々の誤りの内容、解答時間などの外的条件など多くの他の要因を加味しなければならないことがわかったので、ここでは参考のみに付しておきたい。

4-(4) 非母語話者における文章理解度に関する特徴

以上の実験結果から非母語話者の文章理解に関する特徴を以下の4点にまとめる。

1. 照応関係の観点から

- ・ 主題性の高い名詞句要素が先行表現にあると省略の容認度は高くなるはずだが、一概には言えないのではないか。
- ・ 代名詞のテキスト内的指示、特に前方照応がはっきりしていると理解しやすい。
- ・ 省略文がその要素を固定できるような属性叙述であると省略の容認度が高いが、周辺の言語環境によって理解に影響が出る。
- ・ 表層的な文章構造の特定部分、即ち、そこに書かれている表現を指示している場合と明確に表れてこない内容を指示している場合とでは後者のほうが理解度は低くなる。

2. 接続関係・結束性の観点から

- ・ 接続詞で表示される関連性においては外界で起こっている事象をそのまま再現する場合と、話し手がその事象をそのまま述べるのではなく再構成する場合とがある。後者では、時間関係、因果関係、論理関係などの解釈に影響が出る。
- ・ 読み手が文間に直接の意味関係を読み取ることができないとき、理解度の正確さが減ずる。

特に主語、目的語、接続詞が省略された文が出現している場合は読み取りにくい。語句が反復されている場合はその語句が同一語句と関連語句の相違によっても理解に差が生じる。

特に、日本語のように人称代名詞の使用の義務性の低い言語では同一人物であることの保証を示すことが難しく、理解が困難になる。

- ・省略が多く発生するという事は、文と文との結束性の強度にかかわるからとされるが、日本語学習者にとっては決して理解度にプラスになるとは限らない。

3. 文脈の観点から

- ・日本語として成立する表現の場合でも文脈や先立つ問いとの関係において不適切であったりする場合や、反対に、複数の意味を持つような曖昧な文章を発しても文脈、状況、背景などによって支えられているため、それほどコミュニケーションや理解度が乱れない場合もある。
- ・談話の流れとしては主題が先に提示され、それについての叙述があとでなされるという形がある。しかし、まず始めに一般論で書き手、読み手双方が共通の認識をもち、そこに何らかの情報を加えていく場合、卓立性とも関連し書き手の視点が変わる場合、文章構成として複雑になる。

このように何かに依存して展開していくことが多い日本語は日本語学習者にとって容易なものではない。

4. 関連語句の観点から

- ・一つの表現形式に一つの機能に対応するかどうかは疑わしい。コンテキストが異なると同じ発言に見えても別個の発言になるが、意味の「類似性」と「近接性」を捉えていることが必要である。

5. まとめと今後の課題

以上 4-(4)でみられた照応関係、接続関係、文脈の観点、関連語句の観点などから発生する誤りはその原因一つで起こりうるものでなく、多くの場合複数の原因がお互いに連鎖しあっている実態が誤答分析より浮かびあがる。

しかし、本実験は授業を利用したものであり、実験の目的のみに授業を利用することは不可能であり、統計、分析にあたりさまざまな問題が出てきた。特に被験者である学生数が毎回一定せず、統計をとる場合、母集団の質、人数の不統一や人数の少なさから確実性の低い結果になった。しかし、多くの人数から平均化したものを求める実験ではないので、誤答人数は少なくともそこには明らかに誤答を生じさせる問題が存在するわけなので、一人一人の問題解決の点においては誤答の原因を探る意義があった。

今後、誤答の内容の分析により、上記の基本的なコアを押さえていくことにより、複雑

な文構造の正確な理解が高まるのではないかと考えられる。今回は中国語母語話者が対象であったが、母語が違えばその影響で問題解決に取り組む学習者の戦略は当然違うことが予想されるので多面的に取り組む必要がある。

(本文中資料1、資料2とも紙面の都合で不掲載)

参考文献

- 甲斐睦朗 1990年「語彙指導」『日本語と日本語教育7』日本語の語彙・意味(下)
明治書院
- 木村宗雄編 1994年『日本語教授法』おうふう
- 久野 暲 1978年『談話文法』大修館書店
- 甲田直美 2003年『談話・テキスト展開のメカニズム』—接続表現と談話標識の認知的考察—
風間書房
- 国立国語研究所 1978年『日本語教育指導参考書4 日本語の文法(上)』寺村秀夫執筆
大蔵省印刷局
- 国立国語研究所 1981年『日本語教育指導参考書5 日本語の文法(下)』寺村秀夫執筆
大蔵省印刷局
- 国立国語研究所 2002年『日本語教育指導参考書4 談話の研究と教育I』池上嘉彦執筆
財務省印刷局
- 佐久間まゆみ 1994年『要約文の表現類型—日本語教育と国語教育のために—』ひつじ書房
- 佐久間まゆみ 1989年『文章構造と要約文の諸相』くろしお出版
- 津田早苗 1994年『談話分析とコミュニケーション』リーベル出版
- 寺村秀夫 1998年『ディスコース』くろしお
- 寺村秀夫 1999年『文章談話のしくみ』おうふう
- 寺村秀夫編 2002年『日本語の文章・談話』おうふう
- 橋内 武 1999年『ディスコース 談話の織りなす世界』くろしお出版
- 堀内武雄 1986年「主題・要旨・要約はどうまとめるか」『国文学 解釈と教材の研究』
学燈社
- 牧野成一 1993年『繰り返しの文法』—日英比較対照— 大修館書店
- 村岡英裕 1999年『日本語教師の方法論 教室談話分析と教授ストラテジー』凡人社
- メイナード, 泉子・K 1993年『会話分析』くろしお出版
- 森田良行 1996年『意味分析の方法』ひつじ書房
- 文部科学省 1999年『中学校学習指導要領(平成10年12月)解説—国語編—』(平成16年
一部補訂) 東京書籍
- 文部省 1999年『高等学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社

論文・実践報告・調査報告

浅井美恵子 「日本語作文における文の構造の分析」

－日本語母語話者と中国語母語話者の上級日本語学習者の作文比較－

(日本語教育学会日本語教育掲載論文 115号 2002年)

清田淳子 「教科としての「国語」と日本語教育を統合した内容重視のアプローチの試み」

(日本語教育学会日本語教育掲載実践報告 111号 2001年)

金 慶珠 「談話構成における母語話者と学習者の視点－日韓両言語における主語と動詞の用い方を中心に－」

(日本語教育学会日本語教育掲載論文 109号 2001年)

恵谷容子 「主題の省略に関する一考察」－「連続型省略」における容認度の観点から

(日本語教育学会日本語教育掲載論文 123号 2004年)

林 玉恵 「字形の誤用からみた日中同形語の干渉及びその対策」

－台湾人日本語学習者を中心に－

(日本語教育学会日本語教育掲載調査報告 112号 2002年)